

経済・金融 フラッシュ

ユーロ圏消費者物価(23年3月) —総合指数は6%台まで低下

経済研究部 主任研究員 高山 武士

TEL:03-3512-1818 E-mail: takayama@nli-research.co.jp

1. 結果の概要:総合指数は6%台に

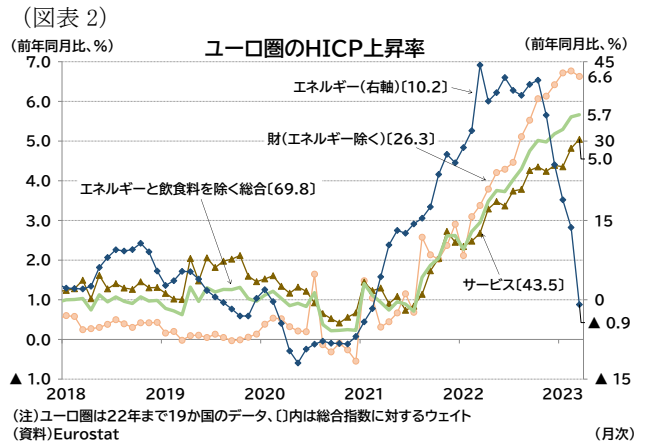
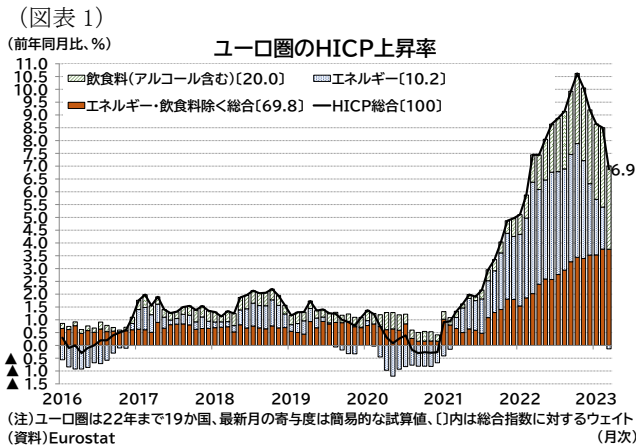
3月31日、欧州委員会統計局（Eurostat）は3月のユーロ圏のHICP（Harmonized Indices of Consumer Prices：EU基準の消費者物価指数）速報値を公表し、結果は以下の通りとなった。

【総合指数】

- ・前年同月比は6.9%、市場予想¹（7.1%）を下回り、前月（8.5%）から減速（図表1）
- ・前月比は0.9%、予想（1.1%）を下回ったが、前月（0.8%）から加速した

【総合指数からエネルギーと飲食料を除いた指数²】

- ・前年同月比は5.7%、予想（5.7%）と一致、前月（5.6%）から加速（図表2）
- ・前月比は1.2%、前月（0.8%）から加速した



2. 結果の詳細:コア指数は伸び率加速が続き、インフレ圧力は根強い

23年3月のHICP上昇率（前年同月比）は全体で6.9%となり、2月の8.5%から大幅に低下した³。一方、「コア部分（＝エネルギーと飲食料を除く総合）」は5.7%と2月（5.6%）から加速し、統計データ開始以来の最も高い伸び率を更新した。

以下、詳細を「コア部分」「エネルギー」「飲食料（アルコール含む）」の3つに分けて見ていく。

まず、コア部分である「エネルギーと飲食料を除く総合」の内訳を見ると、「エネルギーを除く財

¹ bloomberg 集計の中央値。以下の予想値も同様。

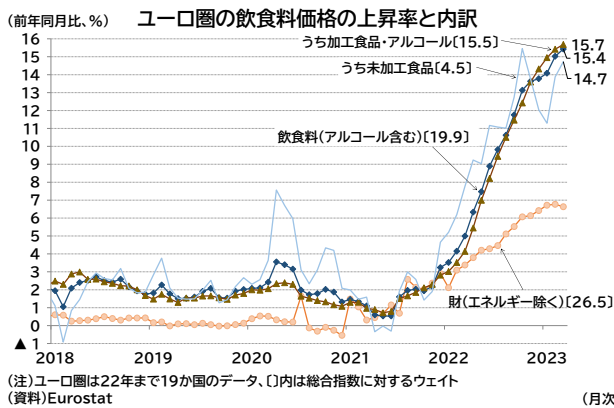
² 日本の消費者物価指数のコアコアCPI、米国の消費者物価指数のコアCPIに相当するもの。ただし、ユーロ圏の指数はアルコール飲料も除いており、日本のコアコアCPIや米国のコアCPIとは若干定義が異なる。

³ 23年からはユーロ圏20か国のデータ、22年までは19か国のデータ（以降も特に断りがない限り同様）。

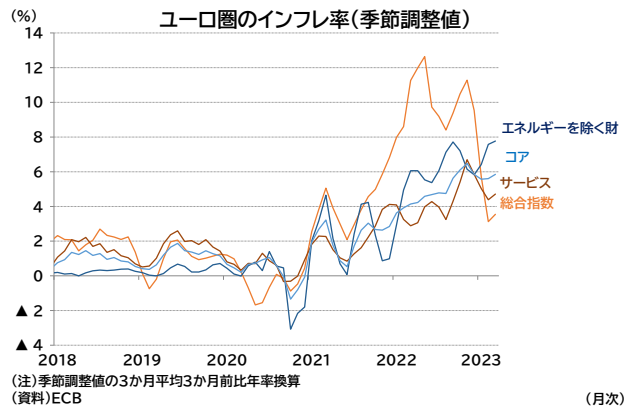
（飲食料も除く）」が1月6.7%→2月6.8%→3月6.6%、「サービス」（エネルギーを除く）が1月4.4%→2月4.8%→3月5.0%となり、財・サービスのいずれも高い伸び率が続いている（前掲図表2）。前年同月比寄与度は、「財」が1.63%ポイント程度、「サービス」が2.02%ポイント程度と見られる。

コア以外の部分では「エネルギー」が前年同月比で1月18.9%→2月13.7%→3月▲0.9%となり、3月は前年比マイナスに転じた。水準で見ると22年10月をピークに下落傾向にあり、3月の前月比は▲2.2%だった。エネルギーの前年同月比寄与度は▲0.13%ポイント程度（2月は1.64%ポイント）となり、前年同月比インフレ率を2%弱押し下げたと見られる（前掲図表1）。

（図表3）



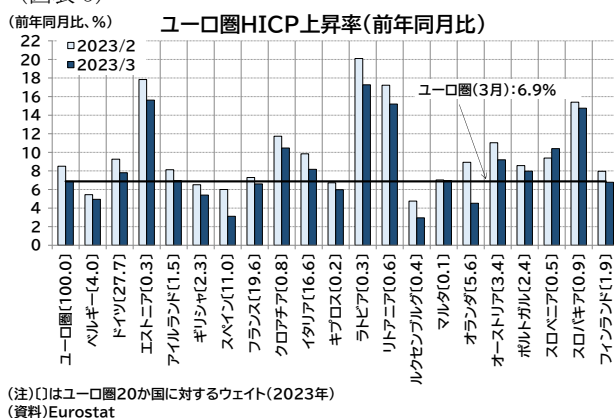
（図表4）



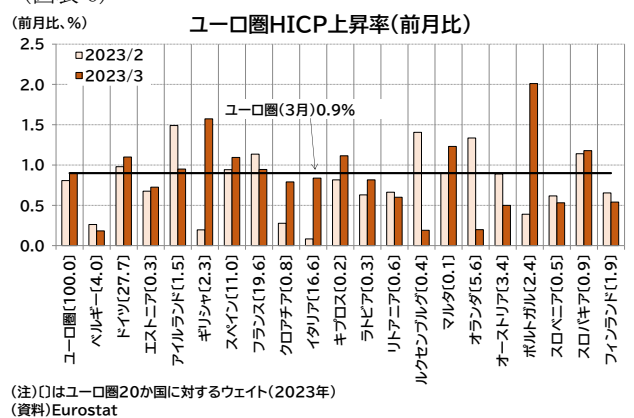
「飲食料（アルコール含む）」は、前年同月比で15.4%（2月15.0%）と、加速傾向にある。飲食料のうち加工食品の伸び率は15.7%（2月15.4%）、未加工食品は14.7%（2月13.9%）といずれも加速している（図表3）。飲食料の前年同月比寄与度は3.26%ポイント程度（2月は3.10%ポイント）と見られる。

総じて見ると、3月はエネルギー物価上昇率が大幅に低下し、全体の伸び率を押し下げたものの、エネルギー以外の財・サービス・飲食料物価はいずれも上昇しており、インフレ圧力は依然として根強いと言える。なお、物価上昇の勢いをECBが公表する季節調整済系列で確認すると、総合指数が前月比0.3%（年率換算3.3%）、3か月移動平均後の3か月前比年率で3.5%となり、22年に記録した伸び率から急速に鈍化した。ECBの目標値（2%）よりは高水準にある（図表4）。

（図表5）



（図表6）



国別のHICP上昇率は、前年同月比で20か国中19か国が減速し、加速したのはスロベニアのみであった（図表5）。一方、前月比では20か国中すべてプラスの伸び率となった（図表6）。

（お願い）本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保障するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。